



役場に広がる美しいゴーヤカーテン

夏になると役場の3階南側には緑のカーテンが広がります。役場の企画課と企業誘致課では、職員が共同で苗などを購入して、緑のカーテンを毎年作っています。

緑のカーテンは、ゴーヤやアサガオなどのつる植物を張ったネットなどに絡ませ、育成させるものです。

夏の気温が高いときに、太陽光の遮断と断熱、植物葉面からの蒸散による気化熱で、建築物の温度上昇を抑えてくれます。植物の鑑賞として、心を癒す効果もあります。

皆さんも家で緑のカーテンを作ってみませんか。緑のカーテンは夏を快適に過ごせる地球の贈り物です。

家族の絆が、 美しいように エコライフも また美しい。



下田優さん、春美さんと長男の泰輝くん(6歳)と二男の慧くん(2歳)一家は省エネ家族。泰輝くんはお父さんと遊ぶことが大好きで、慧くんはお母さんに絵本を読んでもらうことが大好き。エコな取り組みで家族の絆が一層深まります。

電気は私たちの生活をとて豊かにしてくれます。でも、電気がなければ、私たちの生活が豊かにならない訳ではありません。現代社会では、核家族が進み、共働きが増え、家族は一堂に会する機会が少なくなってきました。中には、学校から帰ると自分の部屋に行き、ご飯も部屋で食べ、親との会話をしない子どももいるそうです。家族の絆はコミュニケーションから深まるもの。省エネが叫ばれる今こそ、家族の絆をもっと深めるチャンスかもしれません。さあ家族が集まる場所以外の電気を消して、家族で会話を楽しみましょう。家族の絆が深まるその行為は、テレビの音も映像も必要ありません。笑顔で語り合う家族団らんの生活が、実はエコライフなのです。

この地球で大好きな家族と笑顔でずっと一緒に。エコライフとは、とても美しく素晴らしい生活習慣なのかもしれません。

エコライフイズビューティフル 終

エコライフとは、 ライフスタイルの改革。

生活習慣と節電の奇妙な関係

改革は発想の転換から始まる

電化製品の効率の良い使い方や役場でのさまざまな節電方法を紹介しました。それは私たちの家庭でも活用できるので、今からでも節電を始められます。

しかしエコライフで大切なことは「電力を大切に使う」という意識です。「自分がしなくても、誰かが節電するだろう」という自己中心的な考えは、エコライフには必要ありません。「エコに「エゴ」は要らないのです。

そして節電がエコライフの全てではありません。ライフスタイル…つまり生活習慣を変えることでエコライフにつながることもあります。例えば、読書をする習慣があれば、その時間はテレビは必要ないかもしれませんし、お風呂も家族で同じ時間帯に入るようにすれば、何度も沸かす必要がないかもしれません。そのような生活習慣を変えることが「エコライフスタイル」なのです。

エコのためにライフスタイルを大きく変える必要はありません。それは一時的に大きな効果をもたらしますが、長くは続きません。エコライフも震災への復興支援と同じように、継続して続けなければ意味がありません。それでは何をすれば良いのでしょうか。

例えば、外出することも一つの節電だと言われています。もうすぐ夏休みも始まりますから、家族みんなで出かけるのも楽しいかもしれません。外出することで家で消費する電力を抑えることができます。そして、出かける先は津町にしてみましよう。町で遊んで、町を知る。それが節電になるのなら、まさに一石二鳥のライフスタイルだと思いませんか。

大津には一人でも家族でもエコライフを満喫できるスポットがあります。その一部をご紹介します。

Lifestyle Revolution



大自然に囲まれて過ごす癒しの時間

陽の原キャンプ場

矢護川にある陽の原キャンプ場は、緑が多く、気温も低いので心地良い風を感じることができます。キャンプすることもできますので、気に入ったら家族でキャンプしてみたいかですか？



読書で暑さを忘れてみませんか？

おおづ図書館

図書館も節電は心掛けていますが、快適な環境で本と一緒に過ごすことができます。DVDなども視聴できるので、家族と一緒に図書館に行ってみてはいかがでしょうか？

